

北信教育事務所だより 第3号

平成30年8月17日(金)

～子どもに発し、子どもに還る 学校づくり 授業づくり～

もくじ

- 日々の授業改善研修を終えて … 1
- ゾーン担当訪問について … 2
- 通常の学級における配慮を要する児童生徒への支援について … 3
- 子どもたちの社会的な自立を支援するためのガイドブックを活用して … 3
- 北信地区人権教育研修会を開催しました … 4
- 「信濃の国」県歌制定50周年事業について … 5
- キラ☆と輝く子どもの先生の笑顔 … 6

北信地区の風景



黒姫高原 ダリア園
平成30年8月

第1回日々の授業改善研修 5月18日、22日

授業づくりで大切なこと

ねらいを明確にした授業

楽しい授業のために、**教材研究(子どもの実態の把握、素材研究、指導研究)**を行っていききたい。

学習指導要領を基に**学習の「ねらい」**を明確にして、授業をすることを心がけたい。



授業で「触れる」「人とかかわる」「感じて」「考える」場面をつくって、「**めりはり**」のある**授業**を意識して取り組みたい。

授業の終わりは、見返しや発展問題などに取り組むなど、**見とどけ**を大事にしていきたい。

○授業づくりでは、学習指導要領を基に、授業でつくれる力を明確にもつことで、授業における具体的な支援のあり方がみえてきたので、明日から実践していきたいと思います。
○目標を定め、子どもが授業でどんな姿になってほしいか具体的にイメージしてから素材の研究をしていきたいと思いました。(参観者感想より)

第2回日々の授業改善研修 7月27日

みえてきた 授業改善への見通し

ねらいの達成を見とどけるために

A先生作成の授業構想シートより 【小1道徳「ジャングルジム」(公平、公正、社会正義)】

A先生がこの授業で大事にしたいこと
自分の好き嫌いとらわれず、周りの人と接する意欲を高めたい。

1 「ねらい」の明確化
「ジャングルジム」の学習を通して、誰とでも仲良くすることのよさについて考え、誰に対しても好き嫌いとらわれずにかかわる気持ちを育みたい。

2 「めりはり」のある展開
仲間はずれされる側や仲間はずれを見ている側の気持ちを出し合えるように、登場人物の気持ちを考え、役割演技をして思ったことを話し合うようにしたい。

3 「ねらい」に基づく見とどけ
自分の好き嫌いとらわれず、周りの人とかかわるよさについて、授業を振り返って子どもたちと考えていきたい。

A先生の授業構想の振り返り
終末に出会いたい子どもの姿を明確にすることで、本時のねらいや授業展開が見えてきました。

【第3回日々の授業改善研修】 第3回 11月26日(月) 長野合同庁舎

2学期実践した授業の記録(指導案や学習カード、板書の写真、教材教具等)を持ちより、互いの**授業実践から「めりはり」の充実**を考えます。(これまで参加できなかった方も、参加できます。)



平成30年度重点目標・キーワード
学校教育課
“語らい つなぐ”
生涯学習課
“学びをつなげて
人づくり 地域づくり”

夏休みも残りあとわずかとなりました。心身ともにリフレッシュできた夏休みになりましたか?

2学期が始まります。子どもたちの笑顔のために、ともに語らいましょう。

事務所だよりについて、ご意見・ご感想・ご要望等ありましたら、お寄せ下さい。

(メール hokushin-s@pref.nagano.lg.jp まで)

「ゾーン担当訪問」ってどんな訪問なの？

～1学期に行った「ゾーン担当訪問」を紹介します～

教頭先生 必見！
研究主任

(1) 全職員での合理的配慮研修 ～〇中学校～

【〇中学校の願い】

新年度のスタートや研究の取りかかりとして、全職員で合理的配慮について理解を深めることで、学級づくり・授業づくりに生かしていきたい。

【訪問の実際】

① 指導主事の話

「視覚支援」・
「安心感」・「個
に応じて」がキ
ーワードです。



② 職員同士の語り合い

体育の授業でA君が集中でき
るように他の生徒が視界に入
らない配慮をしています。



自分の授業ではどんな合理
的配慮ができるのだろう。



③ 話し合いの共有

一番の合理的
配慮はその子
の得意な方法
や学び方を教
師自身が捉え
ることだな。



(2) 校長会と連携した、郡市規模での全国学力学習状況調査分析研修 ～N地区～

【校長会・郡市各校の願い】

同規模の他校との比較や中学校区内での情報交換など、一同に会しての研修のメリットを生かし、各校の授業改善をより進めていく機会としたい。

【訪問の実際】

① ねらいの説明



悩みを語り合
ったり他校の
良さを学び合
ったりし、自
校に生かしま
せんか。

② 研修での語り合い

自分のクラスの児童は
こんな誤答を書きそう
だな・・・



やっぱり共通の課題がみ
られるなあ。他の学校で
はどうしてるんだろう。



③ 自校での活用

B小学校の先
生が言ってい
た、式の意味
を説明する活
動を取り入れ
てみよう。



(3) 他にも・・・

- ・初任者、講師の先生の授業参観と懇談
- ・小規模校の利点を生かしたカリキュラム編成
- ・学級づくり研修
- ・楽しく継続して取り組める運動プログラム 等

(4) 「あったらいいな、こんな訪問」 ～あなたの学校～

① どんな願いがありますか？

② 共有したい改善の方向は？

③ 今、求めている支援は？



学級づくり・授業づくりで、各校の課題やニーズに応えられるのが「ゾーン担当訪問」です。ご希望がありましたら、ゾーン担当指導主事（各地区教頭会担当指導主事）までお電話【026-234-9551】ください。お待ちしております。

北信地区人権教育研修会を開催しました

7月19日(木)、東部文化ホール・柳原公民館・サンアップル(障がい者スポーツ支援センター長野)にて「平成30年度北信地区人権教育研修会」を開催しました。

講演会「あいつぐ差別事件と『部落差別解消推進法』の活用」

部落解放同盟長野県連合会

財務委員長 高橋 芳夫さん

高橋芳夫さんは、まず、当事者の方々が部落差別とたまたかってきた歴史について語られ、当事者の方々は「不屈の精神」「正義と勇気」「人間愛の力」を大切にしていたかかってきたことを教えてくださいました。また、義務教育教科書無償化については、高知県の被差別部落の母親たちの訴えにはじまり、全国各地へと大きな運動となり、無償措置に関する法律が成立に至ったことも教えてくださいました。



次に、最近の差別事件についての報告があり、全国であいつぐ土地差別調査や同和地区問い合わせ事件、インターネット上での悪質な差別事件についての実態について詳しく知ることができました。

最後に『部落差別解消推進法』の活用と課題について語られ、現在、部落問題を知らない人権教育指導者が急増していることをたいへん危惧されておりました。部落問題に関する研修の実施・充実の必要性を強く感じました。

講演の最後に、高橋さんは「部落差別を無くす目的を持ったすべての団体・個人は『当事者』である」というメッセージを投げかけられました。私たち一人ひとりが差別を自分事と捉え、差別を無くすための「当事者」であるという自覚をもって生きていくことの大切さを感じました。

【参加者の感想から】

- 歴史の中で差別を受けた当事者のみが運動をするのではなく、皆が当事者であることを意識して行動することが大切であると思いました。
- 『部落差別解消推進法』を理念に終わらせず、実際に使える法律にしていくために、自分も当事者として生きていかなければと思いました。
- 同和对策事業特別措置法が終結し、空白の十五年で、部落問題を知らない先生がいることに驚かされました。法律ができたからこそ、このような研修の場が必要であると感じました。



分科会

- | | | |
|--------------------------|--------------|---------|
| 1 学校における人権同和教育の取組 | 千曲市立埴生中学校 | 中村 春彦さん |
| 2 企業における若者支援の取組 | 春蘭の宿 さかえや | 湯本 晴彦さん |
| 3 性的マイノリティーの方々のつながり作りの取組 | 長野県性教育研究会員 | サノ チカさん |
| 4 障がい者スポーツ施設見学・体験 | サンアップル | 清水 美沙さん |
| | | 三上 大成さん |
| 5 ワークショップ『語り合い気づこう人権』 | 東信教育事務所生涯学習課 | 塩田 直人さん |

県歌「信濃の国」制定50周年

信濃の国は十州に境連ぬる国にして
 登ゆる山はいや高く
 流る川はいや遠し
 松本伊那佐久善光寺
 四つの平は肥沃の地
 海こそなければ物さわに
 万不足らわぬ事ぞなき

信濃の国は十州に境連ぬる国にして
 そびえる山はとも高く、流れる川はとも遠くまで流れていきます。
 松本、伊那、佐久、善光寺の四つの盆地はよく肥えた土地で、海はないけれども物産が豊かにあつて、不足するものはないにもありません。

今、長野県は八つの県と接しています。昔の十の国や今の八つの県はどこか、調べてみましょう。
 次回、一番の意味を紹介します。

長野県は八つの県と接しています。昔の十の国や今の八つの県はどこか、調べてみましょう。
 次回、一番の意味を紹介します。

長野県には他にもたくさん山があります。調べてみましょう。
 次回、一番の意味を紹介します。

作成：長野県教育委員会 企業振興部広報課

県歌「信濃の国」制定50周年

信濃の国は十州に境連ぬる国にして
 登ゆる山はいや高く
 流る川はいや遠し
 松本伊那佐久善光寺
 四つの平は肥沃の地
 海こそなければ物さわに
 万不足らわぬ事ぞなき

信濃の国は十州に境連ぬる国にして
 そびえる山はとも高く、流れる川はとも遠くまで流れていきます。
 松本、伊那、佐久、善光寺の四つの盆地はよく肥えた土地で、海はないけれども物産が豊かにあつて、不足するものはないにもありません。

今、長野県は八つの県と接しています。昔の十の国や今の八つの県はどこか、調べてみましょう。
 次回、一番の意味を紹介します。

長野県は八つの県と接しています。昔の十の国や今の八つの県はどこか、調べてみましょう。
 次回、一番の意味を紹介します。

長野県には他にもたくさん山があります。調べてみましょう。
 次回、一番の意味を紹介します。

作成：長野県教育委員会 企業振興部広報課

※学年だより等でこのまま紹介することも可能です。北信教育事務所のホームページにアップしておきます。ご利用下さい。

「キラッ☆と輝く子どもの先生の笑顔」 vol.3

学校訪問で出会った「笑顔」をコラム風に紹介します

H小 三年 社会科
 「はたらく人」と わたしたちのくらし」

自らの考えを言葉にできない子ども心の内願いに寄り添い、子どもがその願いを実現できるように支える教師の支援により、子どもは少しずつ自信をもち、自分を表現していった。

えのき農家ーさんのえのき小屋を見学したMさんは、えのきのカパーを見つけた。えのきのかさが壊れないように、株の大きさに合わせ一つ一つにカパーをしているーさんの工夫と努力に、誰よりも先に気付いたのだ。担任のO先生は、Mさんに「よく発見したね」と声をかけた。

O先生はMさんの嬉しそうな表情を見て「Mさんは、自分の発見を学級みんなに伝えたいのではないか」と感じた。◆えのき作りについて質問をしたという子どもたちの願いに応えて、O先生はーさんを学級にお招きした。品質の悪いものを出さないように全て手作業でやっていること、育てたえのきの味に自信をもっているから自分の顔を印刷した包装袋で出荷していることなど、ーさんの話を子どもたちは真剣に聞いていた。Mさんは「ーさんは、本当は顔を出すのはこわいけど、勇気を出して顔を出していると思う」と、O先生に話しかけた。Mさんは、自分の考えを伝えたい気持ちがあるが、

勇気が出せずにいる自分とーさんの姿を重ねたのだから。ーさんの生き方に触れて追究を進めたMさんは、授業終わりのチャイムが鳴ると「あー、もう終わっちゃうの」とつぶやいた。◆次の時間、O先生は「ーさんの勇気に目を向けたMさんの気付きを授業に位置づけた」と考えた。しかしMさんは、なかなかみんなの前で話せずにいた。そこでO先生は班毎の話し合いの時、Mさんに「ーさんは自信があるから何をしたらいいか」と問いかけた。O先生の声かけで、Mさんは自分の気付きを少しずつ言葉にしていく。「ーさんは勇気を出して」と言ったMさんの言葉を受けて、となりの友達に「自分の顔を出していた」と言葉をつないだ。Mさんはにっこりして、班のホワイトボードに自らの考えを書いた。◆授業の終末、ーさんがえのきを大事に育てていることを思い返す場面のこの。「見学した時にMさんが発見していたね」とO先生が声をかける。Mさんは「はい」と手を挙げて「えのきのかさが壊れちゃうから一つ一つにカパーをかけてあった」と、自信をもってみんなに語るMさんの姿があった。O先生がMさんの伝えたい気持ちをくみ取り、ーさんの勇気をMさんの勇気に結びつけることで一歩踏み出し、自分に自信がもてたMさん。笑顔で語るMさんの傍らには、笑顔で頷くO先生がいた。◆

【このエピソードから何を感しましたか？】



【このエピソードから大事に考えたいこと】

- 仕事に誇りをもって取り組んでいる地域の方の生き方に触れて芽生えた勇気を、教師の支えて発揮して、自信をつけていった子どもの姿。
- 子どもの胸の内にある思いを理解し、引き出すとする教師の姿。